

令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立京橋築地小学校

学校の教育目標

・よく考える子 ・思いやりのある子 ・たくましい子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

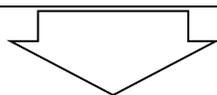
<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさが得られる授業づくりに取り組む。 ・授業内容の工夫のほか、学習 day、放課後補習などを活用し、基礎学力の確実な定着を図る。 ・校内研究と学力向上委員会を生かした授業改善、基礎学力定着への取り組みを行う。
--

令和2年度「学習力サポートテスト」や令和2年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「学習力サポートテスト」において、「書く能力」の正答率が全国平均と同等まで向上したが、区平均からは10ポイント以上下回っている。筋道を立てて自分の考えや感じたことを書くことに課題が見られる。また、自分の考えを整理し、一定量の文章を書くことにも課題が見られる。	書く活動において、自分の考えを整理し、組み立てていく経験が不足していると考えられる。「読む能力」にも課題が見られるため、読み取る能力自体にも課題があると考えられる。
算数	「学習力サポートテスト」において、全ての観点の正答率が全国平均を上回っているが、区平均と比較すると、5年生が10ポイント程度、6年生はさらに「関心・意欲・態度」が大きく下回る。基礎となる計算技能に加えて、問題解決能力に課題があると考えられる。	筋道立てて考える力、考え方を表現する力ともに個人差が大きい。「関心・意欲・態度」が低いことが全体的な学習に影響している。問題が解ける、説明できる、という所まで理解を掘り下げて意欲を高める必要がある。
社会	「学習力サポートテスト」において、全ての観点の正答率は全国平均と同等であるが、区平均と比較すると、4年生が同等、5年生が5ポイント程度、6年生が10ポイント程度下回る。資料をもとに考えたり、活用して表現したりする力に課題がある。知識・理解の定着もやや不十分である。	「関心・意欲・態度」が低いいため、全体的な学習に影響を及ぼしている。児童自らが問題を追究し解決する学習に加え、必要な資料を選ぶことや、活用する学習経験が必要である。
理科	「学習力サポートテスト」において、4年生は区平均と同等かそれ以上の正答率となっているが、5、6年生は全ての観点において全国平均を5ポイント程度下回る。「自然事象への関心・意欲・態度」の低さが全体の課題につながっていると考えられる。	問題解決学習を丁寧に筋道立てて進める経験を積み上げていく必要がある。学んだことを日常生活に当てはめ、活用する経験の不足が考えられる。また、既習事項について振り返る機会が不十分であることも考えられる。

外国語	既習表現に限らず、場面・状況から判断したり想像したりして英語を聞き取る力の定着に課題がみられる。特に高学年では、自分の気持ちや考えを伝え合う場面において英語への不安感から自信をもって発表につなげることができない児童が多い。	自信をもって活動に取り組めるように、繰り返し既習表現を使ったり新出単語を練習したりする場面が少ないことが考えられる。
体育	令和元年度「スポーツテスト」の結果では、50m走や20mシャトルランにおいて数値の高い学年が多いが、「ソフトボール投げ」「握力」が男女ともに全国平均を下回る学年が多い。	住居周辺に体を動かせる場所や施設が限られているため、多様な動きを経験する機会が少ない。また、スポーツ団体への所属の有無等による個人差や、取り組む種目が特化していることも要因として考えられる。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と、思考力、表現力の伸長を図り、東京ベーシック・ドリル等における前年度までの学習内容の正答率を80%以上にする。
②授業改善	・分かりやすく、確実に学力を定着させる授業をめざし、学校評価の児童・保護者アンケートの授業に関する項目で、肯定的評価を90%以上にする。
③教員の指導力	・研究授業の実施、校内OJT組織体制を生かした研修の場を学期ごとに設定するなど、教員同士とともに学び合い指導力の向上を図り、授業の質を向上させる。
④家庭との連携	・家庭との連携のもと、学年×10分の家庭学習の習慣を身に付けさせる。
⑤体力向上	・持久走、および縄跳びにおいて、学年に応じて設定する数値目標の達成率を80%以上にする。 (今年度は夏期水泳と2学期の水泳中止)



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	・表現力、判断力、思考力を育成するために、個の学びの場、学び合いの活動の場を適切に授業に設定する。
取組Ⅱ	・基礎的・基本的な知識及び技能の習得・定着を図るために、授業のほか、朝学習の時間などで、個に応じて東京ベーシック・ドリル等を活用した既習事項の反復、立ち戻る学習を行う。(今年度は家庭学習をタブレット端末のClassroom等を活用して行う。)
取組Ⅲ	・算数科における基礎・基本の確実な習得のために、夏休みや放課後に補習教室を実施し、個に応じた指導の充実を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	・読書活動、文章を読み取る学習活動のほか、考えたことを文章にまとめる活動の充実を図り、読む力と書く力を育成する等、言語活動の充実を図る。
取組Ⅱ	・理科や社会科等、問題解決の学習過程に沿った授業の展開を工夫するとともに、学習内容と実生活との関連を図り、思考力を伸長し、実感を伴った学習内容の理解ができるようにする。
取組Ⅲ	・タブレットPC等ICT機器を活用し、数学的活動や、自分の考えを言葉や図、式で表現する活動を工夫し、数学的な思考力を育てる。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	・校内研究会において全学年で1回ずつ算数科の研究授業を行い、児童が主体的に考え、児童の思考力、表現力を伸長する授業づくりに取り組む。
取組Ⅱ	・各教員の専門性を学び合う校内OJT研修会を、年間を通して計画的に実施する。
取組Ⅲ	・ICT機器を授業に積極的に活用し、教育効果を高める授業を展開する。また、全教育活動の中でプログラミング的思考を育成する機会を設け、児童のICT活用能力を育成する。(行事等でオンライン配信を試行)

④家庭との連携	
取組Ⅰ	・学年×10分間の家庭学習が習慣として身に付くように、保護者会や個人面談などを通して保護者との共通理解を図るとともに、適切な家庭学習の課題を日常的、計画的に出し、児童に取り組ませる。
取組Ⅱ	・個人面談や通知表などを通して、学力調査の結果や日常の学習活動への取組などについて、児童の個々の状況を適切に保護者へ伝えるとともに、よりよい成長のための手だてについて共通理解を図る。
取組Ⅲ	・読書に親しみ、かつ読解力の向上を図るため、親子で読書期間を設けることを奨励する。

⑤体力向上	
取組Ⅰ	・縄跳びカードを活用し、学年ごとの達成目標を設定して個々の技能に応じた指導の充実を図る(縄跳びカードの活用等で4・5・6年生の達成率は4割以上を目指す)。また、縄跳び講師の招聘により、縄跳びに対する意欲・関心を高める。
取組Ⅱ	・持久走カードの活用や、持久走重点週間の設定、体育の授業に継続的に持久力を高める運動を取り入れることで、児童の意欲と体力の向上を図る。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	基礎的・基本的な知識及び技能の習得・定着を図るために、授業のほか、各学年で年6回の放課後の補習教室を実施した。東京ベシック・ドリル診断テストの正答率は学年に差があり50～70%であった。	タブレット端末も活用し、東京ベシック・ドリルやドリルパーク、既習事項の反復学習を行う。診断テストの結果を基に、弱点を中心に基礎学力の向上を図る。次年度は週1回の朝学習の時間を設定し個に応じた学習の充実を図る。
② 授業改善	中央区研究奨励校として全教員で授業改善に取り組んだ。学校評価児童アンケートの「授業の内容がよくわかりますか」の項目で「よくわかる」「わかる」の合計が94.3%となった。	校内研究の主題である「主体的に考え、表現する児童の育成」に向けた取組を継続し、自分の考えを、多様な方法で表現し、対話を重視した活動を積極的に取り入れ、授業内容のさらなる向上に努める。
② 教員の指導力	全学年において年1回の研究授業を実施した。感染症対策をしながらオンラインも活用し、研究授業や協議会を行うなど、授業力の向上への取組を重ねることができた。	日常的に教員相互が授業を観察したり、放課後の時間にOJTを行ったりするなど、日頃から組織的な資質・能力の向上に取り組む。特に若手教員の指導力向上のため、主幹教諭、主任教諭が意識的に助言・指導を行っていくようにする。
④ 家庭との連携	保護者会や個人面談等で理解と協力を得るように努め、個人差はあるが家庭学習の習慣化は進んでいる。	個に応じた家庭との連絡を継続するほか、タブレット端末の活用も含めた家庭学習の内容の工夫を図る。
⑤ 体力向上	持久走、及び水泳においては、コロナ感染症予防のため十分な機会を設けることができなかったが、縄跳びに重点的に取り組み、意欲や技能、持久力に向上が見られた。	感染症防止で活動に制限がある中でも、日常の体育の授業に持久走や縄跳びを意識した体づくりの運動を取り入れるなど、児童が丈夫な体をつくるために、継続して意欲的に取り組める活動の場を設ける。